

## 昭和電工株式会社 2022年3Q 決算説明会 Q & A 要旨

日時：2022年11月7日（月）17:00～18:00

説明者：取締役 常務執行役員 CFO 染宮 秀樹

\*内容は、開催日時点の情報に基づいております。

### 【全社】

**Q 通期の特別損益の見通しを、中間期から100億円改善するように見直しているが、その要因を教えてください。**

A 4Qに不稼働資産の売却益を織り込んだことが主要因。

### 【半導体・電子材料セグメント】

**Q 通期予想から算出すると、4Qは3Qから減収減益になるが、その背景を教えてください。**

A 半導体後工程材料やHDメディアにおいて、顧客の在庫調整が進むことで、減収を見込んでいることが主要因。一方、半導体前工程材料は特段の調整を見込んでおらず、堅調に推移する計画である。

**Q SiCエピタキシャルウエハーの最新動向を教えてください。**

A 業績は堅調に推移しており、200mmサイズのウエハーのサンプル出荷を開始するなど、開発も着実に進んでいる。

### 【ケミカルセグメント】

**Q 2Qから3Qの減収減益の詳細を教えてください。**

A 下期からのナフサ価格の下落や需給バランスの緩みによるスプレッドの縮小などで石油化学が減益になったことが主要因。次いで、黒鉛電極が欧州での販売数量が伸びなかったことやエネルギー価格の高騰によって減益となったことが影響した。

**Q 通期予想から算出すると、4Qは3Qから減収減益になるが、サブセグメント単位にブレイクダウンして背景を教えてください。**

A 石油化学は減収減益、化学品は原材料価格の価格転嫁が進み増収増益、黒鉛電極は出荷数量が増加する一方、エネルギーコストの上昇で増収減益の見通し。

**Q 黒鉛電極の顧客との販売価格の交渉について、最新動向を教えてください。**

A 販売価格は通期平均で前年から3割上げるといふ今期の目標は下げない。また、来年には黒鉛電極の売上3割に相当する顧客との契約を、当社がSSP (Strategic Supply Partnership ; 戦略的供給契約)と呼ぶ形態にする目標は変わらずに交渉している。

以上

\*本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。なお、法令に定めのある場合を除き、当社はこれらの将来予測に基づく記述を更新する義務を負いません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、新型コロナウイルス感染症拡大が世界経済に与える影響、国際情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極等製品の需要動向および市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。